



MUSASHINO^{Vol.124} *for* TOMORROW



巻 頭

音楽を愛し、音楽に助けられる

ワルター・アウアー

(ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席フルート奏者)

卒業生インタビュー

人生を楽しく、
美しくするもの

嘉根礼子(サラマンカホール支配人)

謹賀新年

学校法人 武蔵野音楽学園 理事長 福井直敬



皆様には、ご健勝にて佳き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

武蔵野音楽大学では、昨年1月、関係各位のご支援、ご協力のもと江古田校舎の新築工事(ベートーヴェンホールのみ耐震改修)を完了し、平成29年度から、教学運営の殆どすべての業務を、アクセスに恵まれたこの新施設で行っております。

広々とした自然に囲まれた人間校地から移転した在学生諸君は、当初、都市型の近代的な施設・設備にとまどった様子も見られましたが、徐々に使い勝手に慣れて、各教室やレッスン室は勿論のこと、計6つのコンサートホール・リハーサルホールや図書館、練習室などを活発に利用するようになりました。一方で、中庭やロビー・ラウンジ、キャンパスレストランに集う学生諸君の団欒する姿を見ても、総じて学習意欲の向上と充実した学生生活がうかがわれます。

さて、近年急速に進む少子化等に起因し、私学をとり巻く情勢は年ごとに厳しさを増しております。幸い恵まれた教育研究環境を手にした本学は、その内容や実績の一層の充実、向上を図り、社会に貢献していかなければなりません。

新しい年を迎えた本学では、昨年4月、新校舎落成と合わせ統合・再編を行った新学科の学科組織と新カリキュラムのフォローアップを進めるとともに、FD、SDの更なる推進、教職協同による教育力の充実・向上と相まって、学生の学修成果を厳正に評価するための実技評価基準の見直し等を行い、建学の精神を拠りどころとして、3つのポリシー（卒業認定・学位授与、教育課程の編成・実施、入学者受け入れの各方針）に繋がる内部質保証により教学運営の不断の改革、改善を進め、社会の要請に応えていく決意であります。また、本年は、昨年の学部・学科の再編に続き、大学院の改革として修士課程にピアノコラボレイティブアーツ(ピアノ総合合奏技法)コースを開設し、有為な人材の養成に取り組めます。

未来に向かって新たな歩みを進めた本学園に対し、皆様の温かなご理解、ご鞭撻を賜われますようお願い申し上げます。

音楽を愛し、 音楽に助けられる

ワルター・アウアー

(ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席フルート奏者)



ワルター・アウアー

Walter Auer

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席フルート奏者。1971年オーストリア生まれ。ケルンテン州立音楽院で学んだのち、モーツァルテウム音楽大学にてM.コフラーに、ベルリン・フィル・オーケストラアカデミーにてA.ブラウに師事。バーゼルにてA.ニコレの薫陶も受ける。ドレスデン・フィル、ハノーファー北ドイツ放送フィルの首席奏者を経て、2003年ウィーン・フィル／ウィーン国立歌劇場管の首席奏者に就任。ミュンヘン国際コンクール(ARD)をはじめ、多数の国際コンクールで入賞。室内楽での活動もめざましく、自らのアンサンブル「ウィーン・クリムト・アンサンブル」を結成している。またフルートのレパートリー開拓にも力を注ぎ、ショパンのピアノ三重奏曲のフルート編曲版、ブリチャルディの作品の世界初録音などで注目を集めた他、作曲家アルカライから捧げられた作品「フルートソロのための en passant」や「木管五重奏のための Escapade」を初演する。ソリストとしては、ウィーン・フィルをはじめ、京都市交響楽団、ブダペスト・ドホナーニ管弦楽団、ニュルンベルク交響楽団などと協演。指導者としてもニューヨーク・サマー・ミュージック・フェスティバル、ジュリアード音楽院をはじめ、世界各地でマスタークラスを開催。オーストリア・アッターガウにおける国際オーケストラ協会でも講師として出演し、世界各地での活躍が続けている。

昨年11月24日、本学ベートーヴェンホールにおいて、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席フルート奏者であるワルター・アウアー氏を招いてのコンサート&マスタークラスが開催されました。世界有数のオーケストラで活躍し、指導実績も豊富な氏ならではの素晴らしい演奏、的確なレッスンが披露されました。このステージの前のお忙しい中、時間を割いていただき、ご自身やウィーン・フィルのこと、音楽を学ぶ姿勢などについて語っていただきました。

インタビュー：

本学フルート講師 岩下智子

交響曲とオペラの演奏

岩下 この度は武蔵野音楽大学へお越しいただき誠にありがとうございます。初めに、アウアーさんは日頃ウィーン・フィルのメンバーとして、オーケストラに従事していられっしゃいますが、世界一流のオーケストラ

であるウィーン・フィルの特徴はどんなところだとお考えでしょうか？

アウアー ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団は、同時にウィーン国立歌劇場管弦楽団としても活動する世界唯一のオーケストラです。ウィーン・フィルとして、年に80～100回のオーケストラ公演を開催するほか、ウィーン国立歌劇場とザルツブルク音楽祭を合わせて年間300以上のオペラ公演があります。創設された頃、当時若かったルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンが新しく作曲した交響曲を、我々のオーケストラの前任者たちが初演しました。その後、リヒャルト・シュトラウス、ヨハネス・ブラームス、アントン・ブルックナー、グスタフ・マーラーらが、ウィーン・フィルのために作曲したり、指揮をしたりしました。私たちは、この遺産を最高のレベル、情熱、責任を持って今日まで引き継いでいます。

岩下 並行して行われる交響曲の演奏会とオペラ公演では演奏する際、

どのような切り替えをされていますか？

アウアー たしかに交響曲を演奏するには、より強いエネルギーが必要です。しかし、私個人の考えにおいては、オーケストラピットでの演奏と、ステージ上で交響曲を演奏するのに全く違いはありません。音楽の質は、いつでも同じであるべきです。私は、オーケストラピット内で演奏するのもステージ上で演奏するのも、どちらも好きです。但し、ニューイヤーコンサートのエネルギーは、特別で唯一無二です！

岩下 私ごとですが、先日リヒャルト・シュトラウスのオペラ『ばらの騎士』を演奏しました。大変好きなオペラなのですが、ウィーンでも人気があるそうですね。

アウアー 私も大好きなオペラのひとつです。シュトラウスのオペラの中で、一番素晴らしいと思っています。このオペラで、(台本作家の) ホフマンスタールは18世紀のウィーンを描いています。階級、人々、愛、元帥夫人(マルシャリン)の物語、時間の経過などの物語ですね。しかし、これらを表現するのはすべて演出家や指揮者の仕事です。私たちオーケストラメンバーは、難しいソロパートを駆使し、上手く演奏し、音を響かせ、雰囲気を作り…と、自分の使命を果たすだけです。

岩下 アウアーさんご自身は、ウィー



▲ コンサート(2017年11月24日/本学ベートーヴェンホール)

ン・フィルで何度くらい『ばらの騎士』を演奏されましたか？

アウアー おそらく50回くらいは演奏しているでしょう。

岩下 ところで、ウィーンの街は昔からモーツァルト、ベートーヴェンをはじめとする大勢の音楽家が憧れた「音楽の都」ですが、現在はどんな街でしょうか？ そして、どんなところに音楽的な伝統が引き継がれていると思われますか？

アウアー ウィーンは今でも「音楽の都」です！ ウィーン市内のオペラハウス、楽友協会、コンツェルトハウスの3ヵ所で、毎晩多くのコンサートやオペラが開催されています。ウィーン、オーストリアといえば、音楽、ウィーン国立歌劇場、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団です。これを世界に知らせることも、私たちの仕事です。モーツァルトやベートーヴェンの時代から、何ら変わっていません。

失敗から学ぶこと

岩下 次に、アウアーさんご自身についてお訊ねします。フルートはいつ頃から始められましたか？ どんな先生のもとで、どのようなメソッドで学ばれましたか？

アウアー 最初はリコーダーを習っていて、10歳のときにフルートを始めました。その後、音楽学校でよい先生に習い、その後ケルンテン州立音楽院で、ヨハネス・フォン・カルクレウス先生という、とても素晴らしい先生に巡り会いました。その先生はアルテの教則本を使って多くを教えてくださいました。たくさんの自作曲を使ったり、私は先生のピアノ伴奏でよくオペラ・アリアを演奏しました。その後ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のオーケストラアカデミーに参加するまで、ザルツブルクでフルートを専門に学ぶと同時に、ウィーンで楽器教育学を学びました。

岩下 学生時代の思い出を教えてください。

アウアー 強く印象に残っていることと言えば、実は、私はウィーン音楽大学(ヴォルフガング・シュルツ教授のクラス)の入学試験に落ちてしまったのです。事前段階では先生から合格が保証されていたのに…。私はその結果に大変驚きました。この出来事は、私のその後の人生に非常に大きな影響を与えました。このことで



▲ ウィーンの街並み

私は多くのことを学んだのです。人は成功からよりも、失敗からより多くのことを学びます。数年後、シュルツ氏はウィーン・フィルで私の同僚となりました。

著名な アーティストとの共演

岩下 オーケストラには、いつ頃から入りたいと思われましたか？

アウアー 15、16才の頃から、私はオーケストラ奏者になりたいと思っていました。その頃から音楽を愛し、今でもずっと愛し続けています！ 当時の私の具体的な目標は、音楽を勉強し、それから優れたオーケストラのよいポジションを獲ること。それがいつの間にか、ウィーン・フィルの一員になるとは、私自身も、誰も予想していませんでした。

岩下 ウィーン・フィルに入団し、一番嬉しかったこと、また、苦しかったことはどんなことでしょうか？

アウアー 最も嬉しいことは、毎晩このファンタスティックなオーケストラで、偉大な作曲家たちの作品を演奏できることです。最も苦しいことは、自分自身が目指すクオリティの演奏を実現させることです。

岩下 これまでにオーケストラで共演された偉大な指揮者や演奏家には、どんな方がいらっしゃいますか？

アウアー 私はベルリン・フィル

ハーモニー管弦楽団で2年間、ウィーン・フィルでは15年間演奏しています。この間、今世紀の最も重要な指揮者たちと何度も共演しています。ベルリンでは、クラウディオ・アバド、ウィーンでは、アーノンクール、ムーティ、小澤征爾、ティーレマン、バレンボイム、メータ、ゲルギエフなど、多くの著名なアーティストと共演しました。

音楽を生き生きとさせる

岩下 演奏家は体力が必要ですが、日頃から何か身体を鍛えていらっしゃいますか？

アウアー 私は体調がいいと、より集中力が生まれ、柔軟になることに気づきました。それ以前、私は太っていて、またヘビースモーカーでした。30歳でスポーツを始め、禁煙とスポーツで、現在は大変調子が良く、若さも戻り、体調も万全で作業能力が上がったと感じています。もう長い間喫煙していません。禁煙とスポーツは、学生たちにもぜひ勧めたいですね。私は何度もフルマラソンを走ってますし、夏にはロードバイクと水泳もやっています。来年（2018年）は、短い距離のトライアスロンにも挑戦したいと思っています。

岩下 オーケストラ以外では、どのような音楽活動をされていますか？

アウアー 様々な会場で色々な室内



楽を演奏しています。他にオーケストラのソリストとして演奏したり、ピアニストと興味深いプログラムでリサイタルをしたりしています。

岩下 現在、音楽大学では教えていらっしゃいますか？

アウアー ヴォルフガング・シュルツが亡くなった後、私はウィーン国立音楽大学の彼のクラスの学生を引き継ぎ、以後5年間教えました。

岩下 武蔵野音楽大学の学生たちに、よい練習方法や音楽家になるために大切なことなど、お聞かせください。

アウアー 人生は誰にとっても公平です。よいこともあれば悪いこともあります。運気はアップダウンの連続です。大切なのは「決してあきらめない」ことです！ キャリアを積み人生を歩んで行く過程では、常に成功ばかりがあるわけではありません。



▲ マスタークラス (2017年11月24日／本学ベートーヴェンホール)





多くの場合、人は自分自身の行いの失敗や敗北から学びます。あなたが音楽を本当に愛しているなら、音楽もあなたを助けることでしょう。音楽は常にそこにあり、決してなくなることはありません。我々はいつも音楽に頼ることができます。私はどんなに神経質になっても、動揺しても、常に音楽を信頼し音楽に自分を委ねることができます。それがうまくいけば、すでに多くを手に入れたことになります。

岩下 最後に、音楽家は音楽で聴衆に感動を与える仕事だと思いますが、それについて、一番重要なことは何だとお考えでしょうか？

アウアー 音楽家の仕事は観客を感動させることなく、作曲家の意

図をくみとって、作品をできる限り上手く演奏することです！音楽で語りかけ、観客にストーリーを伝え、あらゆる音色と可能性をもって全ての音楽を生き生きとさせるために演奏するのです。そしてそれが上手いければ観客は気づき、魅了され、その音楽と演奏を愛することでしょう。それを実現するために私たちは音楽家になったのです。私たちの楽器で、音楽を生き生きとさせるためです。その結果、多くの人々に喜びをもたらすのです！

岩下 本日は貴重なお話をありがとうございました！

【インタビュー後記】

アウアーさんにとって日本は、第二の故郷と言っているほど大好きな国だそうです。今回も全国各地で演奏会をされ、ツアーの最後に本学にお越しいただきました。長時間のインタビューにも真摯にお応えいただき、

その後のベートーヴェンホールでのコンサートとマスタークラスでは、説得力のあるダイナミックな演奏で観客を熱くし、マスタークラス（2名受講）では、モーツァルトの音楽がもつ陽気さ、音を響かせる方向について、ダイナミクスとアーティキュレーションを徹底し、楽曲の構成を説明され、大変有意義なレッスンでした。また機会がありましたら、本学においでくださいと申し上げましたら、次回は、ぜひ楽器博物館も訪れたいとおっしゃっていました。



▲ アウアー氏と岩下智子講師

音楽の万華鏡 40

カノンと音楽学

今日、ライプツィヒ市立歴史博物館に飾られているこの肖像画は、J.S. バッハの最もよく知られた肖像画の一つであろう。しかし、ここでバッハが手にしている楽譜、そしてこの肖像画が描かれた経緯については、あまり知られていないかもしれない。この作品は、《ゴルトベルク変奏曲》(BWV988)の低音主題に基づく《6声の3重カノンCanon triplex à 6 Voc.》であり、バッハがやや誇らしげにこの楽譜を示しているのは、ミツラーの設立した音楽学協会に入会する折に描かれたためである。

L.Chr. ミツラー（1711-1778）はライプツィヒのトマス学校で音楽を学び、ライプツィヒ大学で神学を学んだ音楽理論家である。バッハの弟子の一人でもあるが、後には医学を学び、ポーランドに

渡った。彼はこのように音楽、数学、哲学、神学、法律、自然科学についての非常に幅広い知識をもっていたため、数学と哲学に基づく音楽学の確立を提唱した。1737年からはライプツィヒ大学で音楽の講義を行い、月刊の『新設音楽文庫』を創刊、1738年に音楽学協会を設立した。著名な作曲家や理論家から成るこの協会は構成員を20名に限定し、各構成員が音楽に関する様々な問題を文通によって論議して音楽的な理解を深めることを目的としていた。G.Ph. テレマンは早くも1739年に6番目の会員となったが、かねてからミツラーに入会を勧められていたバッハは、1745年にG.F. ヘンデルが11番目の会員になると、ようやく入会に前向きになった。しかしBACHの文字を数字に置き換え(B=2, A=1, C=3, H=8)足すと14になることから14番目の会員にこだわり、1747年まで入会を遅らせた。入会に際しては、ミツラーは「いにしえの音楽の荘重さが復元されること」という協会の会則に述べられた目的に合った肖像画を提出するように求めた。そこ



でザクセン選帝侯宮廷画家E.G. ハウスマン(1695-1774)によってこの肖像画が制作され、曲種として3重カノンが選ばれたのである。バッハは自身の高い学識の証しとして、さらにクリスマスのコラール《高き空より我は来たり》に基づくカノン風変奏曲(BWV769)も提出している。

寺本まり子(本学音楽学特任教授)

卒業生インタビュー

人生を楽しく、美しくするもの

● 嘉根礼子 ●

(サラマンカホール支配人)

岐阜市にある県立のコンサートホール「サラマンカホール」。客席数は708席、クラシックに最適とされるシューボックス型の形状をしており、シンボルは本格的なスペイン様式が組み込まれた総パイプ数2,997本のパイプオルガン。檜材を多用したホール内部はルネッサンス様式の造形をモチーフにデザインされており、まるでヨーロッパの教会のような荘厳な雰囲気をたたえています。このホールの支配人が、かつて武蔵野でピアノを専攻した嘉根(旧姓:嶺肩)礼子さん。江古田新キャンパスにお招きして、お話を伺いました。

(2017年11月17日インタビュー)



嘉根礼子 Reiko Kane

岐阜市出身。武蔵野音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。成城大学文芸学部芸術学科西洋美術史専攻卒業。ピアノを松岡三恵、伴奏法をクリスティアン・デ・ブロイン、チェンバロをマリオリーナ・ボッラ各氏に師事。1993年ドイツ、デュッセルドルフ市「Japanwochen」文化事業の企画に携わったことがきっかけでアートプロデュースの世界へ。2012年よりサラマンカホール支配人。

神の降り立ったホール

—— 最初に、ホールの名前の由来を教えてください。

嘉根 スペインのサラマンカ市がその名の由来です。サラマンカ大聖堂の壊れていたパイプオルガンを、岐阜県白川町に工房を構えていた名オルガンビルダーの辻宏氏が修復し、岐阜県が協力したことで両地域の交流が生まれました。1994年、岐阜市に大聖堂のものと同じスタイルのパイプオルガンを据え付けたホールが出来たにあたり、この名が付けられました。

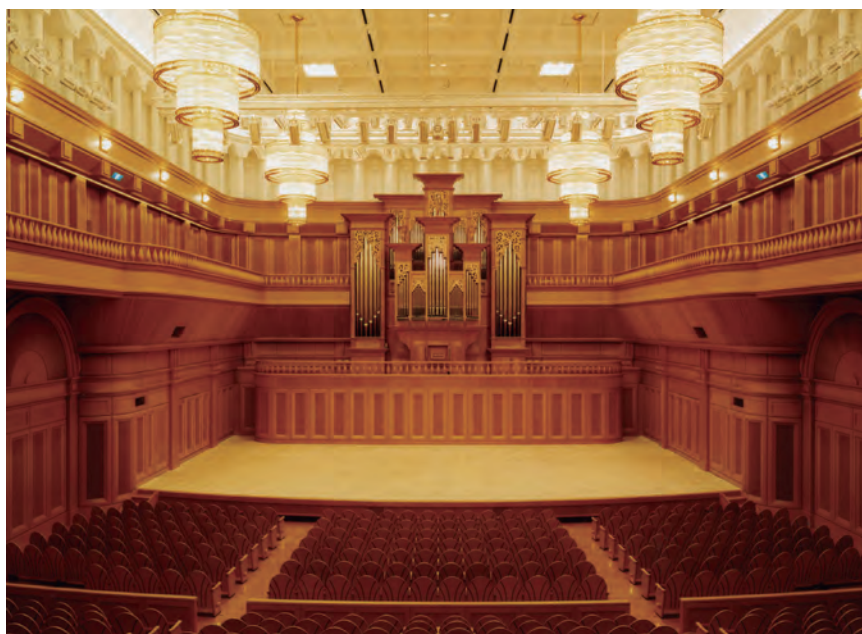
—— ホールの一番の特長は？

嘉根 何と言っても音響の良さです。一度ここで演奏したアーティストの誰もが、「また来たい！」とおっ

しゃってくれます。それが、ホール自体の魅力を如実に表しているのではないのでしょうか。ベルリンフィルのメンバーも、「こんなに良いホールはヨーロッパにもない」と絶賛してくださいました。ピアニストのダン・タイ・ソン氏やジャン＝マルク・ルイサダ氏を始め、数多くの著名なアーティストのCD録音にも利用されています。音響設計の方のお話では、音の善し悪しを決める最後の何パーセントかは神様の采配一つだと。そういう意味で、サラマンカホールは神様が降りてきたホールだと自負しています。

—— 音楽ホールの支配人になられた経緯を教えてください。

嘉根 武蔵野に入って芸術全般の授業を受けるなかで、元々好きだった



▲ サラマンカホール



美術の世界への興味が徐々に深まり、武蔵野を卒業したあと成城大学に入り直して西洋美術史を学びました。その後、学芸員を目指していたのですが、結婚して主人の海外赴任のため、1991年から通算して15年ほど、ドイツ、イタリア、アメリカ、オランダなどで暮らしました。ドイツ時代、デュッセルドルフでシューマンミュージクシュレと日本人学校の子ども達の連弾によるシューマン作品の演奏会を企画し、これがアートマネジメントに興味を持つきっかけとなりました。2009年に帰国して岐阜市



▲ 辻宏氏が修復したサラマンカ大聖堂のルネッサンス式オルガンの前で

の多目的ホールの運営に携わっているうち、2011年にサラマンカホールの指定管理者選定の募集があり、私どものプレゼンテーションが評価され選ばれたわけです。1期5年の任期を終えて、今2期目に入ったところです。

お客様の笑顔のために

—— 支配人としての仕事内容は？

嘉根 スタッフの数が限られていることもあり、営業、企画、プロデュースまで、ホール運営にまつわるあらゆることをしています。雨漏りすればバケツを持って駆けつけますし、チラシも作ります。コンサートの合間にはMCとしてインタビューしたり、オルガンの説明をしたり、要するに雑用一般なんでもします(笑)。

—— 嘉根さんが始めた企画も多いそうですね。

嘉根 現在クラシックのコンサートに足を運んでくださる方はシニア世代に入っていますから、若い世代を育てないと先細りすることは目に見えています。そこで青少年育成のための企画として最初にやったのは、フルーティストの工藤重典さんをお願いした「夏の特別プロジェクト」。木管楽器を中心に、コンサート、ワークショップなどを行い、武蔵野出身のファゴット奏者、吉田将さんにもご協力いただいています。もう一つ、小学生から高校生までの約60人のメンバーを集めて「サラマンカ少年少女合唱団」を創りました。その音楽監督が、同じく武蔵野の先輩の永田昌彦先生。同窓会でお会いした折にお願いして、二つ返事でお引き受けいただきました。また、オーディション

で選ばれたメンバーによる「レジデント弦楽四重奏団」の活動、子どものためのオペラ公演なども私の発案で始め、ホールの看板事業になっています。

—— 仕事の喜び、やり甲斐は？

嘉根 どんなホールにしていくかということを全て任されているわけですから、やり甲斐はあります。任されている以上、集客が求められ、主催公演が完売したときはやはり嬉しいですね。でも、何よりこの仕事のやり甲斐を感じるのは、コンサート終了後のお客様の笑顔を見たときです。「感動しました！」というお客様の声に、逆にこちらが感動したりして(笑)。ホール運営はサービス業だと実感する瞬間でもあります。

生の演奏を聴く意味

—— 武蔵野の新キャンパスの建設にあたり、福井直昭副学長がサラマンカホールを見学したそうですね。

嘉根 副学長と大林組の設計の方が視察にいらっしゃいました。ヘルメットを被って天井裏に入ったり、細かな所まで本当に熱心に見学されました。武蔵野の新しいホールのためにお役に立てたとしたら、卒業生としてこれほど光栄なことはありません。

—— 武蔵野時代をふりかえって、一番



▲ ホールに会場されたデ・ベニート駐日スペイン大使をご案内



▲ サラマンカホールでのリサイタルの後、ウラディミール・アシュケナージ氏（左）、ご子息のヴォフカ・アシュケナージ氏（右）と共に

印象に残っていることは何でしょう。

嘉根 音楽史だとか美学の授業は熱心に聴きましたね。美学の木村昭一先生が大好きで、卒業後も先生がお亡くなりになるまで親交がありました。西洋音楽史の横溝亮一先生ともずっと親しくさせていただき、支配人になってからも様々なアドバイスをいただきました。大学3年の冬には、横溝先生の企画によるヨーロッパに音楽を聴きに行くツアーに参加しました。先生が全て計画し、ガイドまで務めてくださったんです。すごく良い思い出ですが、ただ一つ後悔しているのが、初日に観たウィーン国立歌劇場での『フィガロの結婚』の上演中に、疲れからかぐっすり眠ってしまったこと。フィガロ役のヘルマン・プライを始め、すごいキャストだったのに(笑)。そのとき一緒に参加した同級生とは、今でも付き合いが続いています。武蔵野で培った友達、恩師、先輩、後輩との絆は、何物にも代え難い財産ですね。

—— **武蔵野にもアートマネジメントコースがあり、この分野で活躍したいという学生が増えています。大学では何を学び、どんなスキルを身に付けるべきでしょうか。**

嘉根 武蔵野で音楽に関する専門的な知識を学べたことが、今の仕事に繋がっていることは確かです。もちろん、専門知識以外にも社会的な常識やトレンドに対する鋭い感覚も求められます。アートマネジメントのスキルに関しては、私は仕事をしながら学びました。机上の理論ではなく、実際に一つひとつのコンサートを企画するという経験を通して身に付いたように思います。アドバイスは難しいのですが、ただ一つ言えることがあります。私が今現在この仕事ができている大きな要因となっているのは、海外に暮らしていた際に、とにかく数多くのコンサートに通ったということ。好きで通ったわけですが、結果として耳が肥え、少し聴いただけでそのアーティストの力を推し量れるようになりました。今でも主催公演で誰を呼ぼうかというときには、可能な限り生の演奏を聴きに行きます。CDで聴いていいなと思っても、生で聴いてから判断します。生を聴いて耳を肥やすことは、アートマネジメントに限らず音楽に携わる人間にとっては必要なことではないでしょうか。今では動画サイトで何でも手軽に聴くことができますが、やはりコンサートホールに足を運んで欲しいと思います。

世界に向けての発信

—— **武蔵野の後輩へのメッセージをお願いします。**

嘉根 20代の頃、尊敬する方からいただき、今でも私の指針となっている言葉があります。それを学生の皆さんにも贈りたいと思います。「音楽は人生を楽しくし、努力は人生を美しくする」。この言葉を折に触れて思い出し、いつも「まだまだ努力が足りない!」と自らを叱

咤激励しています。でも、いつになったら美しくなるのでしょうか(笑)。

—— **最後に、これからの夢をお聞かせください。**

嘉根 サラマンカホールを世界的なホールにするのが夢ですね。毎年フランスのトゥールーズで行われている「ジャコバン国際ピアノ音楽祭」を日本で初めて招聘したのも、グローバル化の一貫。つい最近もサラマンカ大学とサラマンカホールの交流の第一歩として、岐阜県知事に同行させていただき、スペインのサラマンカに行ってきたばかりです。音楽ホールが単なる鑑賞の場にとどまらず、芸術文化の発信基地となるためにも、もっとホールをオープンにして、色々な方においでいただき、グローバルな活動が続けて行きたいと思っています。

そして最後に、2018年4月、ピアニストのマリア・ジョアン・ピリスが岐阜に数日間滞在して、若いピアニストのためのワークショップをサラマンカホールで行う予定です。聴講可能ですので、ぜひお越しください。



▲ 江古田新キャンパス リストブラザにて

優れた音響特性を実現し
多様な演奏スタイルにも対応する
充実の大規模練習ホール

3つの リハーサルホール

(文：福井直昭 副学長)

今回、福井直昭副学長が紹介するのは、学生にとっては日々の研鑽、練習に欠かせないリハーサルホール。武蔵野の新キャンパスには大中小3つのコンサートホールに加え、それぞれ個性の異なる3つのリハーサルホールがあり、さまざまな演奏や編成に柔軟に対応可能です。注目すべきは、各ホールの優れた音響特性。本番のステージに匹敵するクオリティを備えており、豊かな音色のなか緊張感をもって練習に臨めるでしょう。

編成・演奏の特性により 最適化された音響・室形状

オーケストラ、ウィンドアンサンブル、コーラスのための大規模な各専用リハーサルホールは、キャンパスの賑わい空間リストプラザから離れた北東部(N棟)に位置しています。前号でご紹介したモーツァルトホールと同棟にあり、また北西部のベートーヴェンホール、ブラームスホールにも隣接しているため、互いに連携した利用が可能です。いずれのホールも(株)大林組が設計施工を行ったほか、同社技術研究所が



▲ オーケストラホールでのリハーサル風景

室内音響予測を繰り返し、工事に反映しました。

3つのリハーサルホールは、壁や天井の平行面を排することでフラッターエコー（平行に向かい合った壁と壁、天井と床の間で音が何回も往復し、音が濁ること）を防止した本格的なデザインです。それぞれの編成の特性を考慮し音響・室形状が最適化されているほか、吸音カーテンにより本番で利用するホールに合わせた響きに調整可能となっています。いずれのホールも天井付近に明かり取りの窓を設置しており、室内にいても時間の移ろいが認識できる配慮を行いました。

音響性能に加え 綿密に計画された遮音性能

また各ホールを同時に使用しても問題ないように、遮音性能も高めました。平面的にはホール間に楽器庫を配置して遮音上の緩衝空間として利用し、上下方向では二重にコンクリートを打設した床形式としました。さらにホール内の静けさを確保するため、通常は天井内に設置される空調機も、遮音性能の高い専用の空調機械室に別置しています。

竣工以来、練習のみならず、演奏会場・試験会場としても、また学園祭等の催し物会場としても頻繁に利用されており、実際に各ホールを訪れた方々は、リハーサル用とは思えないその規模と優れた音響性能に驚かれています。

創意工夫により さまざまな個性をもった 各ホール

前述の音響・室形状のみならず、仕上げや色彩を変えることで各ホールの個性が際立つよう配慮しています。各ホールの特徴は以下の通りです(各残響時間はすべて、500Hz、空席時、カーテンなしによるもの)。

◎オーケストラホール(3階)

気積1590㎡の当ホールは、都内の有名コンサートホールのステージと同等の、大編成のオーケストラでも余裕のある広さになっています。演奏者への反射音の好みに合わせ、ステージの向きを選択可能です。



▲ オーケストラホール：広々としたスペースを確保し、大編成のオーケストラにも十分に対応することができる。



▲ ウィンドアンサンブルホール：音響設計、インテリア、床材など、すべて吹奏楽に配慮が成されている。



▲ 吸音性能にも優れた濃紺のカーテンが、木調 仕上げの内装とマッチしてシックな印象を醸し出している。

低音が充実したクリアな響きを持ち、本番のホールを意識した少し長めの残響時間(1.8秒)となっています。

内装は弦楽器を連想させる木調の仕上げとし、吸音の目的で利用されている布クロスやカーテンは清潔感を感じさせるベージュの色調としています。

◎ウィンドアンサンブルホール(1階)

気積1569m³の当ホールは、ウィンドアンサンブル(吹奏楽)を想定した長すぎない残響時間(1.7秒)が設定され、切れの良いフラットな響きになっています。

このホールも木調の仕上げとしていますが、吸音壁には金管楽器の煌めきに合う黒の布クロスを採用しています。吸音のためのカーテンは模様が入った光沢のある濃紺です。オーケストラホールとウィンドアンサンブルホールに使用されている床材は、高級家具などにも利用される硬いチーク材のフローリングとなっており、手加工で細かな凹凸をつけたハンドスクレイプ加工を施しているの、チェロなどのエンド



▲ オーケストラホール：ミュージックフェスティバル(学園祭)における舞蹈研究(ダンス)部公演

ピンの引っ掛かりが良く、細かな傷も目立ちにくくなっています。

◎コーラスホール(3階)

気積1056m³の当ホールは低音が良く響き、キャンパス内の6つのホール中で一番長い残響時間(2.0秒)となっています。大合唱・室内合唱のみならずオペラのリハーサルにも使用するため、壁面一面に大鏡を設置しており、鏡の前の深紫色のカーテンは前述のよう、残響時間の調整にも利用可能な吸音カーテンになっています。さらにオペラの演出照明を模擬するため、天井には照明バトンを設置しています。

内装は、オペラの衣装や書き割りが映えるようニュートラルなイメージとするため、前述の二つのホールに比べて、明るい木目や無機質な壁材の使用を考えました。その結果、床材は硬く明るい木目が特徴のオーク材のフローリングとなっています。



▲ コーラスホール：大合唱、室内合唱の練習はもちろん、オペラのリハーサルにも使えるよう鏡や照明も工夫されている。

好演が相次いだ秋の演奏会&公開講座

昨年新装なった江古田キャンパス開設以来、様々なイベントが続きましたが、昨秋から年末にかけてはとりわけ多くの演奏会や公開講座が行われました。

✧ 著名な演奏者による レクチャー&コンサート

まずは海外から著名な演奏者を招いたレクチャーとコンサートシリーズ。皮切りは、世界的なピアニストペーター・ヤブロンスキー氏（10月20日ベートーヴェンホール 通訳＝重松万里子）。ラフマニノフのソナタの興味深い公開レッスンに続き、ヤブロンスキー氏の自作などを含む多彩なプログラムでコンサートが行われ、聴衆を沸かせました①。

続いてボストン交響楽団の首席チューバ奏者マイク・ロイランス氏によるレクチャー&コンサート（11月6日 ウィンドアンサンブルホール 通訳＝大塚哲也、ピアノ＝杉野裕子）。学内外から多くの聴講者が集まり、

驚異的なテクニックを堪能しました②。

さらにウィーン・フィル首席フルート奏者ワルター・アウアー氏によるレクチャー&コンサート（11月24日 ベートーヴェンホール 通訳＝岩下智子、ピアノ＝村田千佳）。氏の美しい音色と音楽性による演奏に会場からは感嘆のため息が漏れ、その後の公開レッスンでは、多くのフルーティストにとって実りある時間となりました。（3、4ページ参照）

本学に馴染み深いインゴ・ゴリツキ氏のオーボエ公開レッスン（11月28日 ウィンドアンサンブルホール 通訳＝青山聖樹）では、氏のバッハやモーツァルトの深い学識と、経験に基づいたレッスンを展開③。

また、本学客員教授として就任7年目のイリヤ・イーティン氏のピアノ・リサイタル（11月30日ベートーヴェンホール）では、モーツァルトのソナタとシューマンの交響的練習曲Op.13が弾かれ、その透明な音色と高度なテクニックに、聴衆からの拍手が鳴り止みませんでした④。

続いて本学特任教授松本美和子 ソプラノ・リサイタル&ミニレクチャー（12月13日ブラームスホール）では、著名オペラ歌手との共演で知られるヴィンチェンツォ・スカレーラ氏をピアノに迎え、ベッリーニ、トスティ、フォーレなどの楽曲を披露。美しい歌唱で満員の聴衆を魅了しました。続くレクチャーでは、スカレーラ氏と共に的確な指導をされ、学生たちは熱心に耳を傾けていました⑤。

✧ 学生の研究演奏会も多彩に開催

学生による研究演奏会も数多く行われました。武蔵野音楽大学合唱団演奏会（指揮：栗山文昭本学教授、片山みゆき本学講師、11月8日ベートーヴェンホール）では、グレゴリオ聖歌、ブルックナーとあまり聴く機会のないコダーイのミサ曲が歌われ、美しい響きで観客を魅了しました⑥。

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会（12月4日東京芸術劇場コンサートホール）では、米国バンド界で活躍しているテリー・オースティ





ン教授の指揮で、マスランカ作曲「我らに今日の糧を与えたまえ」などアメリカの吹奏楽作品をダイナミックに演奏⁷。

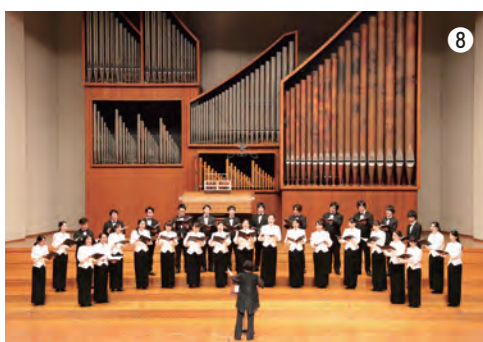
武蔵野音楽大学室内合唱団演奏会（指揮：栗山文昭本学教授、片山みゆき本学講師、12月6日ベートーヴェンホール）では、グレゴリオ聖歌やイ

タリア・マドリガーレ、バルトークなどの作品を、少人数ならではの繊細なハーモニーを聴かせてくれました⁸。

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会（12月11日東京オペラシティ コンサートホール）では、オーディションで選ばれた声楽専攻の学生や卒業生、また国際的に活躍している本学卒業の森

谷真理女史によるオペラアリアのガラコンサート、後半はラフマニノフ晩年の作品、交響的舞曲 Op.45が、時任康文本学講師の指揮で演奏、会場は華やかな響きに包まれました⁹。

このほか音楽学専攻学生が企画した「フランス国民音楽協会の挑戦」と題した演奏会（11月6日ブラームスホール）、ニュー・ストリーム・コンサート32～ヴィルトゥオーソ学科演奏会～（11月15日トッパンホール）、オペラコース試演会《フィガロの結婚》など（11月28日ブラームスホール）が開催され、いずれの会場も聴衆から温かい拍手喝采を浴び、成功裏のうちに実り豊かな平成29年度のシーズンを終了しました。



栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

（順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの）

●九州交響楽団にバス・トロンボーン奏者として入団（平成29年10月）

古荘恭英（平成3年大学トロンボーン専攻卒業、本大学院修了）

●第71回全日本学生音楽コンクール 声楽部門 大学の部 東京大会本選 第1位入賞、全国大会 入選

奥秋大樹（平成28年大学声楽専攻卒業、本大学院2年）

●第29回日本ハープコンクール2017 プロフェッショナル部門 第2位入賞

三谷真珠子（平成29年大学ハープ専攻卒業、本大学院1年）

●第26回IBLA GRAND PRIZE国際音楽コンクール（イタリア） MOST DISTINGUISHED MUSICIANS賞、テレマン特別賞受賞 堺千江子（平成6年大学サクソフォン専攻卒業）、●第69回福岡県音楽コンクール ハープ部門 知事賞受賞 佐藤杏樹（本大学院1年ハープ専攻）、●第13回ルーマニア国際音楽コンクール グランプリ受賞、打楽器部門 第1位入賞 船越千幸（大学2年打楽器専攻）、声楽部門 第2位入賞（1位なし）、コカ・コーライーストジャパン賞受賞 山下みなみ（平成27年大学声楽専攻卒業、本大学院修了）、●第26回こまば会ピアノコンクール 専門部門 第1位入賞 木寄 萌（大学2年ピアノ専攻、附属高校卒業）、第2位入賞 森 麻里菜（平成28年大学ピアノ専攻卒業、本大学院1年）、●第4回とやまクラシックピアノコンクール シニア部門 Fコース（大学・一般） 銀賞受賞 上坂愛美（平成28年大学ピアノ専攻卒業、本大学院2年）、●第20回「長江杯」国際音楽コンクール ピアノ部門 大学の部 第2位入賞 古市明里（大学4年ピアノ専攻、附属高校卒業）、声楽部門 一般の部B 第3位入賞 森川圭子（平成6年大学声楽専攻卒業）、●2017 12th アジア国際音楽コンクール 社会人ピアノ部門 第2位入賞 小泉光平（平成26年大学ピアノ専攻卒業、本大学院修了）、●第19回日本演奏家コンクール ピアノ部門 一般Aの部 第3位入賞 上坂愛美（平成28年大学ピアノ専攻卒業、本大学院2年）

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

新キャンパスで初めてのミューズフェスティバル

去る10月27日から29日の3日間、平成29年度第66回ミューズフェスティバルが、江古田キャンパスで開催されました。

今年度のテーマは、「彩(IRODORI)」。新装なったキャンパスを自分達で染めていきたいという願いと、このフェスティバルを演奏・展示など様々な催しで彩り豊かな祭典にしたいとの思いが込められました。新キャンパスでの開催とあって、企画の段階で苦労もありましたが、先輩から

引き継がれた伝統を活かしながら準備が進められました。

連日、学生による演奏会がベートヴェンホール、ブラームスホールで開催され、この日のために組まれたアンサンブルの成果を披露しました①。また、新キャンパスの外観に相応しい装飾が施された各会場では、楽器会やサークルで行う展示や個性豊かなイベントが繰り広げられました。

中でもキャンパスの中心にある「リストプラザ」に設置された模擬店では、趣向をこらしたメニューが並び、卒業生、近隣の方など多くのゲストで賑わい、一画に設けられたステージの演奏に耳を傾けたり、学生、教職員等と交流するなど思い思いに楽しみました②。

3日目は、残念ながら台風の影響で屋外での催しが午後から中止となりましたが、雨の中来場くださった多くの方々



の傘の色が、学生たちが一丸となって臨んだフェスティバルに彩りを添えてくれました。

一方、秋の気配が深まった入間キャンパスでは、附属高等学校、武蔵野幼稚園、入間音楽教室合同の入間ミューズフェスティバルが、コンサートホール“バッハザール”をメインステージに開催されました③。附属高校では、授業の成果としてウィンドアンサンブル、合唱、ピアノ、管打弦楽器による様々なアンサンブル、美術部や華道部の展示、ダンスなどを発表しました。また幼稚園のホールでは、子供たちが想像を膨らませて制作した作品が展示され、訪れた方々を笑顔にしていました④。



武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名（五十音順）は、平成29年8月1日から11月16日までに寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、ご寄附いただけるようになりました。クレジットカード決済により簡単に手続きができます。是非ご利用ください。

【同窓生】伊藤利子様 井上敏子様 今立信子様 岩井 歩様 小川靖奏子様 小黒万里子様 坂本徳恵様 柴田洋子様 田中路恵様 永田佳子様 藤居洵子様 藤田令子様 本間敬二様 松田紀子様 水野玲子様 吉田厚子様 同窓会群馬県支部様 同窓会埼玉県支部様

【在学生・同ご父母】加藤好浩様 木村未希様 高野美芳様 山口達之様 渡辺 靖様

【役員・教職員・一般・他】石井牧子様 小畑朱実様 岸 潤一様 坂下 寛様 坂下裕子様 佐藤 愛様 清水直美様 田代 慎之介様 戸田史郎様 長尾立矢様 吉池道子様 武蔵野音楽協会様

(他に匿名を希望される方14名)

平成30年度 学生・生徒募集のお知らせ(入学試験日程)

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科(博士後期課程)

	出 願 期 間		試 験 期 間
	郵 送	窓 口	
大学院博士 後期課程入試	平成30年2月13日(火) 消印 ～20日(火) 消印	郵送のみ	平成30年 3月8日(木)・9日(金)

武蔵野音楽大学(音楽学部)

	出 願 期 間		試 験 期 間
	郵 送	窓 口	
1年次 一般入試 A日程	平成30年1月16日(火) 消印 ～30日(火) 消印	平成30年 1月29日(月)・30日(火)	平成30年 2月18日(日)～22日(木)
1年次 一般入試 B日程	平成30年2月23日(金) 消印 ～3月1日(木) 必着	平成30年3月2日(金)	平成30年 3月5日(月)～7日(水)
1年次 一般入試 C日程	平成30年3月7日(水) 消印 ～13日(火) 必着	平成30年3月14日(火)	平成30年 3月16日(金)～18日(日)
3年次 編・転入入試	平成30年1月16日(火) 消印 ～23日(火) 消印	郵送のみ	平成30年 2月11日(日)・12日(月)・祝

●一般入試A日程およびB・C日程の受験では、国語・英語について、大学入試センター試験の成績を利用できます。

入学試験の詳細については、各入学試験要項でご確認ください。

武蔵野音楽大学(別科)

	出 願 期 間		試 験 期 間
	郵 送	窓 口	
別科入試	平成30年1月16日(火) 消印 ～23日(火) 消印	郵送のみ	平成30年 2月12日(月)・祝・13日(火)

武蔵野音楽大学附属高等学校(音楽科)

	出 願 期 間		試 験 期 間
	郵 送	窓 口	
附属高等学校 推薦入試	平成30年1月9日(火) ～16日(火) 必着	郵送のみ	平成30年1月22日(月) ※入間キャンパスにて実施
附属高等学校 一般入試A	平成30年1月23日(火) ～30日(火) 消印	郵送のみ	平成30年2月11日(日)
附属高等学校 一般入試B	平成30年3月2日(金) ～9日(金) 必着	郵送のみ	平成30年3月16日(金)

【会 場】武蔵野音楽大学江古田キャンパス(附属高校推薦入試を除く)

【要 項 請 求】各入学試験要項は、江古田キャンパスで取り扱っています。郵送をご希望の方には無料で送りいたしますので、本学ウェブサイトの「資料請求フォーム」からご請求ください。お電話でのお申し込みは、氏名、住所、電話番号、および希望される入学試験要項の種別(附属高校、大学1年次、大学3年次編・転入、大学院、別科)をお知らせください。

【要項請求先】武蔵野音楽大学 広報室
〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1 TEL.03-3992-1125
本学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

音楽教室(江古田・入間・多摩) 生徒募集のお知らせ

【前期入室試験】平成30年2月25日(日)

各音楽教室で実施 ※エクセレンスコースは江古田音楽教室で行います。

【願 書 受 付】平成30年1月20日(土)～2月17日(土) ※日曜・月曜・祝日を除く

*入室試験の詳細については、平成30年度音楽教室のご案内(生徒募集要項)でご確認ください。要項は各音楽教室で取り扱っております。音楽教室ウェブサイトの資料請求フォームからご請求いただけます(送料無料)。

その他詳細については、下記へお問い合わせください。

■江古田音楽教室 TEL.03-3994-7536 ■入間音楽教室 TEL.04-2932-1111

■多摩音楽教室 TEL.042-389-0711

音楽教室ウェブサイト http://music_school.musashino-music.ac.jp/

◆受験可能な年齢・学年(平成30年3月末現在)

ブレイクコース	3歳
スタンダードコース	4歳～高等学校2年生
レッスンコース	小学校6年生～高等学校2年生
ソルフェージュコース	4歳～高等学校2年生
受験コース(大学志望)	中学校3年生～高等学校3年生
エクセレンスコース(江古田音楽教室のみ設置)	5歳～高等学校2年生

編集後記

本学卒業生の嘉根礼子さんが、恩師からいただいたという言葉、「音楽は人生を楽しくし、努力は人生を美しくする」。努力にまつわる格言には、「努力に勝る天才なし」「努力は裏切らない」などといっ

たものもあります。年頭にあたり、皆さんはどんな夢、目標を抱いたのでしょうか。その実現に欠かせないのは、やっぱり努力です。音楽をたのしみながら、一日一日、一步一步、努力を重ねて2018年を実りある年にしたいものです(編)。

六つ折三味線

1887年(明治20年) 日本 全長96cm

風呂敷や扇子、着物などに見られるように、より小さく折りたたんで収納する、あるいは持ち運ぶという手法は、私たち日本人が古くから得意とし大切にしてきたものである。自らの足でさえも折りたたむ正座の国日本では、屏風や掛け軸のような絵画においても、折りたたみ式が主流である。今回はこうした日本の「折りたたみ文化」が生んだ、ユニークな三味線を紹介する。

元来、初期のころの三味線は折りたたみ式ではなかったが、楽器の日本的な完成に伴って、次第に携帯の利便性を考えて棹が折りたたむためのタイプが誕生した。はじめは棹を二分割する「二つ折」が登場し、後に現代のように、棹を三つに分割できる「三つ折」が一般的となった。写真の楽器は、「六つ折」になるめず



らしい種類である。分割した三味線は、胴がすっぽり入るほどの桐箱にコンパクトに収納することができる。

このように、棹の分割が可能となった背景としては、紅木や紫檀など硬質な唐木を棹に用いるようになったことがあげられる。唐木を用いた楽器や工芸品は正倉院御物にも見られるが、当時はあくまでも上流階級に限られたものであった。しかし、江戸中期以降になると、需要の高まりとともに活発な輸入によって、唐木の製品が庶民の手にも届くようになったのである。また同時に、硬質な唐木に精巧な加工を施して、凹凸を組み合わせることで、今日のような分割の棹が一般的となっていった。

写真の楽器は、三味線棹としては最高級の紅木材で、「朱入り」と呼ばれる手法が施されている。これは、木目の柔らかい部分と硬い部分をより均一にするために、漆をかける前に棹に何度も朱を塗り込んで磨く手法であるが、現代では手間がかかるため稀少である。

(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)



❖ 目次 ❖

謹賀新年	1
福井直敬	
音楽を愛し、音楽に助けられる	2
ワルター・アウアー	
音楽の万華鏡	5
カノンと音楽学 寺本まり子	
卒業生インタビュー	6
人生を楽しく、美しくするもの 嘉根礼子	
江古田新キャンパス探訪③	9
3つのリハーサルホール	
MUSASHINO NEWS	11

- ❖ 好演が相次いだ秋の演奏会&公開講座
- ❖ 栄冠おめでとう！(コンクール入賞者等)
- ❖ 新キャンパスで初めてのミューズフェスティバル
- ❖ 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々
- ❖ 平成30年度 学生・生徒募集のお知らせ(入学試験日程)
- ❖ 音楽教室(江古田・入間・多摩) 生徒募集のお知らせ

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖ 発行 ❖

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)

バルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2018年1月10日発行 通巻第124号